

ヴァンフォーレ甲府などが財団にマーク寄贈

試合会場にベルマーク回収ブース

サッカー J2 のヴァンフォーレ甲府は、2013 年から毎年、ベルマークを収集して被災校支援のために寄贈を続けてきました。8月19日、同じくサッカー J2 のジュビロ磐田戦の試合前のピッチ上で、2022 年度に収集された合計約 3 万 3000 点を、財団に寄贈するセレモニーが行われました。

この活動は、協賛会社あいおいニッセイ同和損保（ベルマーク番号 92）山梨支店、チームスポンサーのはくばく、地元代理店さいとうエージェンシーの協力で続けられています。この日も、試合会場前ではベルマーク回収のブースが設置されました。あいにく突然の雷雨というハプニングもありましたが、ベルマークを持参すると「Jリーグ 30 周年試合球」「選手サイン入りグッズ」などがプレゼントされるイベントが開催され、列ができるほどたくさんの人たちが集まってくれました。



あいおいニッセイ同和損保の青木洋介支店長は「ホームチームのヴァンフォーレ甲府のサポーターだけでなく、ジュビロ磐田のサポーターの方々もベルマークを持参して参加してくれました。雨も降りましたが盛り上がりました」と話してくれました。

低価格でも機能は充実

東通産業、デジタルカメラ販売

協力会社の東通産業が、撮影を気軽に楽しめる「デジタルカメラ KC-AF05」を取り扱っています。約 101g(付属品、充電池を含まず) という軽さで、手のひらにすっぽりおさまるサイズ感が特長。低価格でありながら、さまざまな撮り方ができる機能を搭載しています。

焦点距離 25.5mm(35mm 判換算) の広角レンズを採用し、広い範囲を写せるこのカメラ。一方で、最短約 10cm まで被写体に寄って接写することもできます。手ブレ軽減機能や、シャッターボタンの半押しでピントを合わせるオートフォーカス機能が、撮影をサポートしてくれます。

価格は税抜 19,500 円です。お問い合わせは東通産業 (0120-129-102) まで。



お買いものガイド2023後期号を発行

表紙の写真を募集しています

「お買いものガイド」2023 年度後期号 (No.125) が完成しました。ベルマーク預金で買える商品のカタログです。10 月末までに各参加団体にお届けします。



表紙は、「とびなわ練習台」の上でなわとびをする子どもたち。練習台はよく弾み、ジャンプする力を補助してくれます。写真は、千葉県柏市にある市立土小学校で撮影しました。今年度、ベルマー

ク預金で 4 台のとびなわ練習台を購入した同校。3、4 年生が笑顔いっぱいになわとびを披露してくれました。

貯めたベルマーク預金でお買いものをする、購入額の 10% が自動的に財団に寄付され、へき地学校や特別支援学校、災害被災校などへの支援に活用されます。ぜひお買いものをご検討ください。

なお、これから寒くなってくると、暖房器具や加湿器の注文が増えます。商品によっては在庫が足りなくなり、お届けまで時間がかかることがあります。納期に余裕を持った注文をお願いします。

◇

財団では、お買いものガイドの表紙写真を募集しています。ベルマーク預金で買った備品や遊具を使って、子どもたちが勉強したり遊んだりしている写真をメールでお送りください。

採用された場合には、お買いものに至った経緯や、購入品をどのように使っているか、子どもたちの反応などについて、お話をうかがいます。

1 枚でも、複数枚でも応募できます。データサイズが大きい場合は 1 枚ずつ送っていただいても問題ありません。

【対象】約 1 年以内にベルマーク預金で購入した備品や遊具

【送付先】件名を「ガイド表紙写真応募」とし、okaimono@bellmark.or.jp へのメールに添付してください。本文には、学校名、担当者の連絡先（お名前、電話番号）、購入した商品名をご記入ください。

【データ規定】カラー写真のみ、モノクロは不可。ファイル形式は TIFF。

【注意事項】明るさ等の加工はせず、元画像をお送りください。また、肖像権や著作権に問題のある写真は避けてください。

新しい備品、学校に届きました!

へき地学校、特別支援学校から感謝メッセージ

今年度、財団が支援したへき地学校や特別支援学校から、お礼のメッセージや、子どもたちが備品を活用している写真が届いています。今月号では、5 校分をまとめてご紹介します。

◇

CD ラジオを使っている写真を送ってくれたのは鳥取県立鳥取養護学校 (①)。CD ラジオで音楽を流しながら、体操をしている様子です。主幹教諭の中垣克彦先生によると「もともとあったラジカセよりも持ち運びやすく、音も良い」とのこと。教室内のいろいろなところで音楽をかけることができ、使いやすさを実感できたそうです。新しい

CD ラジオを見た子どもたちも笑顔を見せてくれたといいます。

静岡県の浜松市立水窪中学校 (②) には、ワンタッチテントを寄贈しました。スタートラインに立つ子どもたちの後ろに、新品の真っ白なテントが写っています。運動会前日、本番に向けて準備が大詰めを迎えていたときに、大きな郵便物が届いて驚いたと話すのは事務職員の大石好孝さん。「使用する運動会の前日に届くとは、なんという幸運なことでしょうか」。9 月でも厳しい暑さが続く中、テントは大いに活躍しました。

北海道の日高町立門別小学校 (③) か

ら届いたのは、車椅子を使っている写真。早速。足を痛めた児童の役に立ちました。他にも、両手を自由に使えるハンズフリー拡声器や、校歌の練習などに使える CD ラジオも希望しました。

財団が一輪車を寄贈した、愛媛県の内子町立小田小学校 (④) の子どもたちは練習に夢中。学校には限られた数しかなく、子どもたちから「台数を増やしてほしい」と以前から要望がありました。上岡教浩校長が、新しい一輪車が届いたことを紹介すると、すぐに練習を始めた子どもたち。「すいすい乗ることができて気持ちがいい」「ぼくも一輪車に乗ることができるよう、挑戦

したい」と反応があり、新品の一輪車は子どもたちのやる気につながりました。一輪車以外にも、手元の教材をスクリーンに映せる簡易教材提示装置や、サッカーボール、ドッジボールなども寄贈しました。「教育環境の整備は子どもたちの伸びや成長に大きな影響を与えます」と上岡校長は話してくれました。

最後は鳥根県の吉賀町立六日市中学校 (⑤)。黒板拭きクリーナーを使っての姿を先生が撮ってくれました。充電式クリーナー、テレビ、電気ケトルなどの寄贈品も、届いてすぐ活用してくれたようです。

